

平成 24 年 11 月 19 日
総 務 局

東京都防災会議地震部会(南海トラフの巨大地震に係る検討 第2回)
議事概要について

1 地震部会の概要

日 時：平成 24 年 11 月 7 日（水） 18：00～20：00

場 所：東京都庁第一本庁舎北塔 33 階 特別会議室N 1

出席者：平田部会長、中林部会長代理、佐竹委員、久田委員、翠川委員、安田委員
宮寄危機管理監、村松総合防災部長、箕輪企画調整担当部長
白井計画調整担当課長ほか

2 議事概要

南海トラフの巨大地震による被害想定に関し、各委員から下記のとおり意見が出された。

＜モデル及び想定手法について＞

- 地震動については、国が設定したモデルのうち都にとって最大の規模となる東側ケースと経験的手法を採用すること。
- 長周期地震動については、国の検討を注視していくこと。
- 液状化の想定手法において、地震動の継続時間を考慮した補正係数をかけてやることで、液状化の計算を行うということも考えられる。
- 津波については、島しょ町村や東京湾内において、国が設定したモデルのうち最大の津波高となるケースを採用すること。
- 採用するケースのうち、被害に結びつく浸水域が、最大となるケースで被害想定をすれば良いのではないか。
- 想定するシーンとしては、いろいろなパターンはあるが、人が一番多い時間帯や、寝静まっている時に、津波が発生したらどうなるのかの検討が必要ではないか。

＜想定項目等について＞

- 想定をどう対策に結びつけるのかを考えると、島の特殊性は考慮しなければならない課題となる。定性的にはなるが、どういう被災状況が想定されるのかを島ごとに押さえることは大切なこととなる。
- 手法の検討をする上で、過去に地震災害を受けた全国の島の状況が参考となるのではないか。
- 南海トラフの巨大地震では、島しょの被害想定が重要となるが、都心部での混乱や被害について指摘が必要ではないか。